

行政視察内容報告書

令和3年11月17日

土佐清水市議会

議長 永野 裕夫 様

(提出者) 委員会名 産業厚生常任委員会
氏 名 委員長 武政 健三



下記のとおり報告します。

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察	<input type="checkbox"/> 要請・陳情関係
	<input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input type="checkbox"/> 会議への参加	<input type="checkbox"/> その他 ()
参加者	細川博史・甲藤眞・谷口佳保・浅尾公厚・武政健三・永野裕夫議長・作田喜秋副議長		
	計 7 人		
期 日	令和 3 年 11 月 17 日 ~ 令和 3 年 11 月 17 日		

【概要】(年月日・場所・内容)

日時 : 令和3年11月17日 (水) 午前9:30~11:50
場所 : 高知県漁業清水統括所(土佐清水市市場町)周辺
内容 : 土佐清水ジオパーク「土佐の清水さばツアー」の体験及び研修と質疑

令和3年9月25日、土佐清水ジオパークが日本ジオパークに認定された。所管の委員会である産業厚生常任委員会として、ジオツアーの中のひとつ、「土佐の清水さばツアー」(2,000円/人)の体験と研修を行った。

まず、ジオガイドより本番どおりのジョークを交えた明るく楽しい案内が始まる。「13万年前は今立っているこの場所は海の中だった」から始まり、ジオガイド手作りのフリップを見ながら、ジオツアーならではの十数万年の間の地殻変動のストーリーを教えていただき、その流れから「何故清水さばはおいしいのか」の説明に入る。

長年にわたる地殻変動の結果、足摺半島周辺は潮の流れが速いうえにプランクトンなどの魚の餌が豊富な環境で、清水さばはそこで生まれ、そこで育っている。足摺岬沖50キロに10キロに渡る「瀬」があるが、「瀬付きのゴマサバ」は身が締まって最高においしいとの説明がある。しかし、こ

のゴマサバは鮮度が落ちやすく、釣る時の注意点や釣った後の扱いもしっかり研究されていた。人肌の温かさがサバにとっては火傷をするほどの熱さになるため、絶対素手では触らない工夫、また船から市場の水槽まで手網に入れて走る「サバダッシュ」も全てが鮮度を守るためであると説明をしていただく。実際にサバ水槽も見学し、生きたサバが同一方向に回遊している様子も見学した。

漁協ではその日に水揚げされた魚の競り（せり）が行われており、聞き慣れない独特のかけ声が聞こえていた。清水さばの説明だけではなく、ジオの説明もジョークを交えつつ話してくれて、あつという間に楽しい時間が過ぎ、次は漁具販売の「福屋」に移動。

かつて、漁師がたくさんいて賑やかだった土佐清水市も時が経ち、漁師の高齢化や魚ではなくサンゴ漁に移った漁師も多数いることもあり、本市の漁業に危機感を感じているとのこと。現在、このような漁具専門店は幡多では「福屋」だけになっているとの説明もあり、市議会の皆さんもそれを把握していただき、土佐清水の漁業に対してしっかり検討をしていただきたいと宿題をいただく。

全体で1時間のツアーだったが、あつという間に時間が過ぎたように感じる。市外、県外の方々へこのジオツアーを案内するのであれば、この流れのまま清水さばの刺身の料理（別途1,300円）も堪能していただけるように案内していただければ、もっと喜んでいただけるのではないかと感じる。

その後、市役所に戻り、国立公園*ジオパーク推進課酒井課長より、「ジオパークのこれまでとこれから」という内容で、ジオパーク認定までの取組と、これからどう土佐清水ジオパークの活動を進めていくのかの説明をしていただく。

議員から、認定ジオガイドの高齢化の問題について、ガイド育成も重要課題との話があったが、中学生、高校生にガイドをしてもらうことも将来を見据えたうえで検討をするべきではないかとの意見があった。

また、ツアー参加料1人2,000円は少し高いのではないかと、例えば子供割引とか地元割引とかも検討して、もっとたくさんの方々に参加をしていただける内容を検討するべきではないかとの意見が出された。

最後に、日本ジオパークに認定されたことは最終目標ではなく、まだスタートに立ったところと見え、現在あるものすべてが完成形とは考えず、ひとつひとつを常に検証しながらレベルアップをしていくことを忘れてはならないと感じる研修であった。

